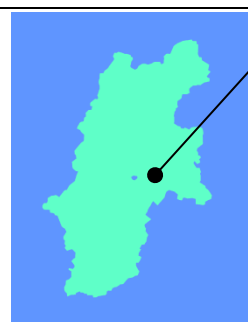


≪「大沢の宝」つなげ隊≫

「地域の宝」発掘・保存・活用による地域の良さの再発見事業



- グループ概要
- | | |
|-------|----------|
| 結成年月 | H. 28. 5 |
| 構成員数 | 7名 |
| 50歳以上 | 7名 |
- 代表者 小林 勝広
(コバヤシ カツヒロ)
- 担当者 矢島喜久雄
- 住 所 茅野市

(6) その他、中高年グループが主体となった地域づくり、社会貢献活動

結成の動機

仕事が優先されるゆとりのない社会の中で、地域の宝が忘れ去られている状況にある。家の片隅にある馬頭観音、そのいわれを知る人は少ない。地区外にある区の元宮や、区内にいくつかある祝神は、見向きもされないで参道が荒れ放題となっている。

昔から伝えられてきたこれらの宝に着目し、多くの区民に関わり、整備することにより、地域のよさの再発見につながると考えている。

更には、作業を通し、普段なかなか顔を合わせる機会の少ない人たちが集い、会話することにより、つながりが生まれる。子どもたちも一緒に活動することにより、地域のよさの発見も期待されると考える。

事業の目的

地域住民が地域のよさを実感することを目的として、地域の宝の発掘、地域の宝の保存・整備、地域の宝の活用の活動を進める。そのために、以下の視点で活動する。

1. 多くの区民が共に関わって活動する。
2. 世代間交流を図り、人を知る。
3. 共に汗を流し、体験を共有する。
4. 若者、とりわけ子どもたちと共に活動することにより、子どもたちが地域のよさを体感し、将来この地に生きようとする原体験とする。
5. 地域コミュニティを形成するよさを体感できるよう、人と人が支え合えるような取り組みを作り出していく。

今年度の事業計画

1. 地域の宝の発掘
縄文遺跡・各所にある祠や馬頭観音・道祖神・史跡等について、郷土史家や歴史家に学ぶ。(講演会 2 回、現地調査 4 回)
2. 地域の宝の保存、整備
荒れている祠のまわりの整備や、参道の整備。看板

の設置。人が集うベンチ等の設置など。

- (1) 祠の周辺や参道の整備事業(7カ所7回、ベンチの設置1回)
- (2) 看板の設置(歴史調査2回、文言の編集3回、看板設置2回)

全ての活動を区民対象とし、多くの方の参加を呼びかける。

将来計画

<2年目の事業計画>

3. 地域の宝の活用
パンフレットづくりと、パンフレットを活用してのウォーキングを兼ねた学習会等
- (1) パンフレットづくり5回
- (2) ウォーキング学習会1回

<3年目の事業計画>

新たなお宝の発掘として、武田信玄が掘った金鶏金山の調査をし、歩道の整備やトイレの設置等の検討をする。更には、マップにし、誰もが気軽に散策できるようにする。

事業実施により地域に期待される効果

1. 知る
この地で生まれ、この地に生活している私たちだが、思いのほか地域のことに関心を持たずに過ごしている。ましてや、若者や子どもたちは、何かきっかけがないと地域のことを知ろうとはしない。そのため、「この地は何もなく、ただ寒いだけ」というような愚痴がささやかれる。この活動を通し、参加者が地域のよさを再発見するとともに、次世代にそのよさを伝え、地域に生きる誇りを持つことができる。

2. 集う
同じ区に生活しながらも、平日頃会話をする人は限られ、世代が変わると名前すら知らないという状況が生まれている。昔は人の子も我がことに感じ、地域のお年寄りに叱られたものだが、今はどこの子か知らないことが多く叱れることもない。
この事業を通し、多くの区民とりわけ子どもたちが集い、一緒に汗を流しながら世代間交流が生まれ、互いに知り合え、その結果、道で会っても気軽に挨拶を交わすことができる人間関係が育まれる。

3. 愛する
活動を通して地域のよさを知り、地域住民とりわけ若者がこの地を愛し、この地を大切にしたい気持ちを持つことが期待でき、更には、子どもたちがこの地を誇りに感じ、郷土愛を育むことができる。